2026年度 第7回（12月）北辰テスト対策 予想問題　解答・解説

国語

1　問1（4点）

ア

拓海は野球部を引退し、「ほかに何がしたいのか、わからない」状態にある。後輩たちのかけ声は、野球から離れた自分と、まだ決められない自分を思い出させるので、「逃げるように」目をそらした。

・ア 野球を離れて進路も決められない自分を意識している→正答
・イ 後輩の練習に不満があるとは書かれていない
・ウ 先生にしかられるのをおそれている様子は本文にない（先生は穏やかに話している）
・エ 声がうるさくて腹を立てているとは書かれていない

採点ポイント:「かけ声から逃げるように」と、直後の「何がしたいのか、わからない」を結びつけて読めているか。

1　問2（4点）

ア

拓海は「野球しかやってこなかった」と思っていたが、先生は、去年の秋に自分が練習メニューを作り直したことを覚えていて、「ずいぶん楽しそうだった」と言ってくれた。思いがけず自分を見ていてくれたと知って、拓海は「顔を上げた」。

・ア 見ていてくれたことへの驚きと、うれしさ・照れくささ→正答
・イ 不快に感じている様子は本文にない（顔を上げて聞いている）
・ウ 人ちがいだと思っている様子は本文にない
・エ すぐに進路を決められると感じたとは書かれていない

採点ポイント:「顔を上げた」という動作から、意外さとうれしさを読み取れているか。

1　問3（6点）

(例) 急いで決めるより、得意なことを知る材料を探すほうが大切だと考えた（32字）

正答例:

・(例1) 急いで決めるより、得意なことを知る材料を探すほうが大切だと考えた（32字）
・(例2) 進路を決めるより、得意なことを知る材料を集めるほうが大切だと考えた（33字）

根拠: 拓海は進路が決められず、調査票を空白のまま持ち歩いている。先生は、あせって決めることよりも、「何が好きで、何が得意か、その材料を探す」ことが今の拓海にとって大切だと考え、「決めることがゴールじゃない」と言った。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
①「得意」が使えている	1点	指定語必須
②「材料」が使えている	1点	指定語必須
③ 急いで進路を決めること（決めること）よりも大切だという対比が示されている	2点	「急いで決めるより」等
④ 得意（好き）なことを知る材料を探すことが大切だと考えたという内容が示されている	1点	「〜ほうが大切だと考えた」等
⑤ 25〜35字の字数を守っている	1点	逸脱は減点

指定語の使用順序は問わない。

1　問4（4点）

ア

先生は、「選手として続けるだけが、野球との関わり方じゃないかもしれない」と話した。拓海はパンフレットを手に取らないが、表紙の文字から目を離せないのは、野球との新しい関わり方に心を動かされ、自分の将来を別の見方で考え始めたからである。

・ア 野球に関わる別の道があると知り、将来を考え始めている→正答
・イ 字が読めずに困っているわけではない
・ウ 「これが正解だと言っているんじゃない」とあり、決められたと感じている様子はない
・エ 悔しさでいっぱいになっている様子は本文にない

採点ポイント: 先生のことばと、目を離せないという動作を結びつけて読めているか。

1　問5（5点）

ア

拓海は、書いた学校名を消そうとして「やめた」。そして、薄い字が夕日を受けて「少しだけ濃く見えた」と結ばれる。迷いは完全に消えていないが、自分で選んだ道を進もうとする思いが固まったことが印象づけられる。

・ア 迷いは残りながらも、思いが固まったことを印象づけている→正答
・イ 「やめた」とあるので、後悔して消したいと思っているわけではない
・ウ さびしさだけを強調する描写ではない（「少しだけ濃く」に前向きな変化がある）
・エ 学校名を書いており、決められなかったわけではない

採点ポイント: 「消しゴムをやめた」ことと「少しだけ濃く見えた」ことの両方から、拓海の変化を読めているか。

1　問6（5点）

イ・オ

・ア: 後輩たちのかけ声を窓の外から聞いている描写は、拓海がもう部活動に加わっていないことを印象づけている→適切
・イ: 先生は「決めることがゴールじゃない」と言い、拓海をあせらせないようにしている。早く決めさせようとする気持ちとは反対→不適切→正答
・ウ: 去年の秋のことを覚えている先生の言葉から、見守ってきたことが読み取れる→適切
・エ: 先生の話とパンフレットが、拓海に野球との新しい関わり方を考えさせている→適切
・オ: 「少しだけ濃く見えた」とあるように、迷いがすべて消えたわけではない→不適切→正答

採点ポイント: イ・オの2つを両方選んで正答（5点）。過不足があれば0点（部分点なし）。

2　問1(1)（2点）

げきやく

劇薬＝使い方をあやまると命にかかわるような、作用の強い薬。

採点ポイント: 「げきやく」。「げきくすり」「げきぐすり」と読まないこと。

2　問1(2)（2点）

れいこう

励行＝決めたことを、ひたすら守って実行すること。

採点ポイント: 「れいこう」。「れっこう」「れいぎょう」などの誤りに注意。「励」は「はげ（む）」とも読む。

2　問1(3)（2点）

創刊

創刊＝新聞や雑誌を、はじめて刊行すること。
採点ポイント:「創」の「倉」の部分と、「刊」の右側の「りっとう」を書き誤らないこと。「相関」「送還」などと混同しない。

2　問1(4)（2点）

功労

功労＝ある目的のために力をつくした働き（手がら）。
採点ポイント:「功」は「工」に「力」、「労」は「冖（かんむり）」に「力」。「公労」「効労」などと書き誤らないこと。

2　問2（3点）

イ

補助の関係は、前の文節の意味を補って、「〜ている」「〜てくれる」のように、本来の意味がうすれた動詞が下につく関係。
・ア 「書店が／ある」＝「ある」は存在を表す本来の意味で使われている
・イ 「作って／くれる」＝「くれる」は、本来の「物をわたす」意味がうすれ、恩恵を表す意味をそえている補助の関係→正答
・ウ 「荷物を／持つ」＝補助の関係ではない
・エ 「お菓子を／くれる」＝「くれる」が「物をわたす」本来の意味で使われている
採点ポイント: 同じ「くれる」でも、「〜て」に続くかどうか、本来の意味が残っているかどうかで見分けられているか。

2　問3（3点）

ウ

連体形は、体言（名詞）に続く形。
・ア やる＝文の終わりにあるので終止形
・イ 開け＝「て」に続くので連用形
・ウ 降る＝あとの体言「日」に続くので連体形→正答
・エ 起き＝「ない」に続くので未然形
採点ポイント:「やる」と「降る」は形が同じなので、あとに続く語（文の終わりか、体言か）で見分けられているか。

2　問4（3点）

イ

副詞は活用せず、主に用言（動詞・形容詞・形容動詞）を修飾する自立語。
・ア 静かに＝「静かだ」と言い切れる形容動詞の連用形
・イ とても＝活用せず、形容詞「おいしい」を修飾する副詞→正答
・ウ あらゆる＝活用せず、体言「方法」を修飾する連体詞
・エ おだやかな＝「おだやかだ」と言い切れる形容動詞の連体形
採点ポイント: 活用するかどうかと、何を修飾しているかの二点から見分けられているか。「〜に」でも、言い切りが「〜だ」になる語は形容動詞である。

2　問5（3点）

ア

苦しい思いをしても、それが過ぎてしまえば、そのつらさをすっかり忘れてしまうという意味のことわざは「のど元過ぎれば熱さを忘れる」。

・ア のど元過ぎれば熱さを忘れる＝苦しさも、過ぎてしまうと忘れてしまう→正答
・イ 石橋をたたいて渡る＝用心の上にも用心して物事を行う
・ウ 転ばぬ先の杖＝失敗しないように、前もって用意しておく
・エ 急がば回れ＝急ぐときは、危険な近道より、遠回りでも確実な道を選んだほうが結局は早い

採点ポイント: 「寝こんだときの誓い」と「数日たつとまた同じことをする」の二点と、ことわざの意味を結びつけられているか。

2　問6（3点）

Ⅰ 一　Ⅱ 十

「一を聞いて十を知る」＝わずかな話を聞いただけで、物事の全体を理解できること。

採点ポイント: Ⅰ＝一、Ⅱ＝十。両方できて3点。「百」「二」などの誤りに注意。漢数字で書く指定なので、算用数字では不正解。

2　問7（3点）

ア

「涼しい顔」＝自分に関係のあることでも、まるで関係がないかのように、平然としている様子。

・ア 関係があるのに平然としている様子→正答
・イ 疲れを見せない様子を表す言葉ではない
・ウ うれしそうな顔を表す言葉ではない
・エ 気温の「涼しさ」とは関係がない（言葉どおりの意味ではない）

採点ポイント: 「遅刻の原因を作った本人」が「注意されても」平然としているという場面から、意味を判断できているか。

2　問8（2点）

ウ

司会は、田中さんの「敬語を正しく」と、山本さんの「読みにくくならないか」という二つの意見を受けとめている。空欄のあとの「敬語は正しく使いつつ、一文を短くして」へ自然につながるのはウ。

・ウ 正しさと読みやすさの両方が大切だと整理している→正答
・ア 山本さんは敬語を使わないとは言っていない
・イ 山本さんの「読みにくくなる」という意見を無視することになり、あとの発言とつながらない
・エ 田中さんの意見を取り上げないのは、あとの発言とつながらない

採点ポイント: 空欄の前後の流れから、司会の役割（二つの意見をつなぐ）を読み取れているか。

3　問1（4点）

ア

①のあとに、「担い手は入れかわり、道具は新しくなり、見物に訪れる人の顔ぶれも変わっていく。それでも、人々は、今年の祭りを去年と同じ祭りだと感じる」とある。

・ア 変わっていても、同じ祭りだと感じている→正答
・イ 祭りの日が変わっているとは述べていない（冒頭に「毎年同じ日に」とある）
・ウ 「何も変わっていないという意味ではない」と否定されている内容
・エ 祭りが大きくなっているとは述べていない

採点ポイント: 「しかし」のあとの内容と、直後の「それでも……同じ祭りだと感じる」から読み取れているか。

3　問2（4点）

ア

第2段落に、「神輿をかつぐ順路、かけ声の調子、始まりの合図。こうした型さえ守られていれば」とある。これらが「型」の例にあたる。

・ア 順路、かけ声の調子、始まりの合図→正答
・イ 屋台の食べ物は本文に出てこない
・ウ 参加する人の年齢は、むしろ変わっていくものとして書かれている
・エ 費用の集め方は本文に出てこない

採点ポイント: ②の直前の「神輿をかつぐ順路、かけ声の調子、始まりの合図」を根拠にできているか。

3　問3（6点）

(例) 担い手が少なくなっても運べる形にでき、祭りの中心となる型を残せた（32字）

正答例:

・(例1) 担い手が少なくなっても運べる形にでき、祭りの中心となる型を残せた（32字）
・(例2) 担い手が減っても続くよう型の一部を変え、かけ声や順路は残せた（30字）

根拠: 第3段落に、担い手が足りない町で、神輿をかつぐ人数を減らして台車で運ぶようにしたが、「かけ声も順路も始まりの合図も残っている」ので祭りだと感じ続けられた、とある。担い手が少なくなっても続けられる形に変えながら、祭りの中心となる型を残せたから、祭りが続いた。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
①「担い手」が使えている	1点	指定語必須
②「型」が使えている	1点	指定語必須
③ 担い手が少なくなっても続けられる形に変えたという内容が示されている	2点	「担い手が減っても運べるよう変え」等
④ 祭りの中心となる部分（型の残りの部分）を残せたという内容が示されている	1点	「祭りの中心を残せた」等
⑤ 25〜35字の字数を守っている	1点	逸脱は減点

指定語の使用順序は問わない。

3　問4（4点）

ア

④は、型の理由を、年代の異なる人どうしで話し合うということ。直後に、「理由を知らないまま守られる型は、いつか重荷になる。理由を知って選ばれた型は、……次の世代の誇りになる」とある。

・ア 世代を超えて理由を共有し、そのうえで決める→正答
・イ 理由を聞かずに守るのは、「重荷になる」と述べられている態度
・ウ 理由がわからないからといってやめるのは、話し合うことにならない
・エ 若い世代だけで決めるのは、「世代を超えて」に合わない

採点ポイント:「世代を超えて」と「理由を知って選ぶ」の二点を、別の例に置きかえて考えられているか。

3　問5（5点）

ウ

「適切でないもの」を選ぶ問題。

・ア: 冒頭で身近な祭りの例を挙げ、読者を話題に引き入れている→適切
・イ:「たとえば」で、担い手が足りない町を想定し、主張を具体的に示している→適切
・ウ: 本文に、祭りの起源や、古い文書の引用は出てこない→不適切→正答
・エ: 最終段落が、冒頭の「同じ」に見える祭りの話に結びついている→適切

採点ポイント:「本文にあること」と「本文にないこと」を区別できているか。

3　問6（5点）

ア

筆者は、祭りが「同じ」に見えるのは型が受け継がれているからだと述べ、型の一部を変えてでも続けることはできると示した。そのうえで、理由を知って選ぶことが大切であり、伝統を受け継ぐとは「過去と未来をつなぎなおす」ことだとまとめている。

・ア 理由を知って選び続け、過去と未来をつなぎなおす→正答
・イ 「変えずに守ることだけではなく」と述べており、一つも変えないという考えとは合わない
・ウ 祭りをやめるべきだとは述べていない
・エ 型には「手がかりになっている」という働きがあると述べており、意味がないとは述べていない

採点ポイント: 具体例と、最終段落の主張の両方を含む選択肢を選べているか。

4　問1（4点）

ア

「危うし」は、現代語の「危うい」にあたり、「危険だ、あぶない」という意味。「濡れて登れば」は、「ぬれて登ると」と訳す。男は、雨の日に屋根に登るのは危険だと言って、修理をしない理由にしている。

・ア 雨にぬれた屋根に登ると危険だ→正答
・イ 「気持ちがよい」は「危うし」の意味ではない
・ウ 時間がかかるとは書かれていない
・エ 見た目が美しいという意味ではない

採点ポイント:「危うし」＝あぶない、と覚えているか。

4　問2（4点）

ア

男は、雨の日は「危うし」と言い、晴れの日は「漏らねば直すに及ばず（漏らないので直す必要はない）」と言って、どちらの日にも直さない理由をつけている。これでは、いつまでたっても屋根は直せない。そこにおかしさがある。

・ア どちらの日にも直さない理由をつけている点→正答
・イ お金がないとは書かれていない
・ウ 男は直さずに年を過ごしている
・エ 屋根に登るのが好きとは書かれていない

採点ポイント: 「雨の日」と「晴れの日」の二つの言い分を組み合わせて読めているか。

4　問3（4点）

ア

「知りながら直さざりしは、誰ぞ」は、「（雨漏りを）知りながら直さなかったのは、だれですか」という意味で、直さなかった夫自身を、笑いながらとがめている。妻は前に屋根を直すよう頼んでいたのに、男は理屈をつけて直さなかった。

・ア 夫にあきれ、皮肉をこめてとがめる気持ち→正答
・イ 夫を気の毒に思い、なぐさめているわけではない
・ウ 知らなかったのは夫のほうで、妻ではない
・エ 感心してほめているわけではない

採点ポイント: 「知りながら」と「直さざりし」から、夫の落ち度を指摘していることを読み取れているか。

4　問4（4点）

(例) 雨が降らず、晴れている間（12字）

正答例:

・(例1) 雨が降らず、晴れている間（12字）
・(例2) 雨が降らない、晴れているうち（14字）

根拠: 「晴れの間にこそ、備へはすべけれ」は、「晴れている間にこそ、備えはするべきだ」という意味。雨が降っていないうちに、屋根の修理のような備えをしておくべきだと、翁は言っている。

採点基準:

要素	配点内訳	判定基準
① 晴れている（雨が降らない）間という内容	2点	「晴れている間」等
② 現代語で書かれている	1点	古語のままは減点
③ 10〜20字の字数を守っている	1点	逸脱は減点